

野田市立保育所指定管理者候補者 選定委員会（フォローアップ）会議録概要

開催日時	平成30年2月16日（金）午後1時30分から午後3時30分まで
開催場所	野田市役所5階 512会議室
出席委員	副市長（委員長）、企画財政部長、児童家庭部長、行政管理課長、管財課長、保育課長
欠席委員	総務部長（副委員長）
事務局	保育課、行政管理課

1 開会

<委員長より開会の言葉>

2 議事

平成29年度（4月～12月）野田市立保育所業務報告書及び平成30年度野田市立保育所業務計画書の審査について

<事務局より平成29年度（4月～12月）野田市立保育所業務報告書及び平成30年度野田市立保育所業務計画書について指定管理者ごとに説明>

<審議の概要>

（1）南部保育所について

○ 業務報告書4ページの③午後8時以降の保育における配慮状況の延長保育利用時間による夜食の内容の違いを教えてください。

→ 延長保育利用時間の中では午後6時におやつを提供し、午後8時以降は希望者に夜食を提供している。夜食の内容はごはん類や麺類などの主食と汁物を提供している。

○ 夜食は希望者のみか。希望しない人もいるのか。

→ 希望者のみに提供している。希望しない人もいる。

○ 夜食代は延長保育料に含まれているのか。

→ 延長保育料に含まれている。

○ 業務報告書19ページの苦情解決の状況について、第三者委員を設置しているとあるが、第三者委員が関わった苦情を教えてください。また、どのような方を委員として任命しているのか。

→ 第三者委員が関わった苦情はない。なお、現在の委員は野田市議会議員の竹内美穂議員である。

- 業務報告書40ページの施設の利用状況報告について、延長保育の午後10時までのスポット利用が1件あったが、どのような理由で利用することになったか。また午後9時までの利用については、急な残業以外で利用することがあったか。午後8時までのところは、遅れることがあっても保護者は少しでも早く迎えにくるよう努力しているが、長くしていることで必要最小限以上に遅くなっていないかという視点で伺いたい。
 - 午後10時までのスポット利用の保護者は残業のため利用している。午後9時までの利用についても急な残業以外で利用することはない。

- 業務報告書42ページの3収支状況報告の収入の区分中、雑収入の内容について教えてほしい。
 - 雑収入の内容は、職員給食費やお泊り会の集金などとなっている。

- 業務計画書14ページの③給食（おやつ）の提供への取組みのエピペンの取扱について、記載では、医師の指導の上、実施することとなっているが、使用に当たっての研修体制を教えてほしい。また、実際に使用した事例はあるか。
 - エピペンを預かる際には、医師の指示書をもっており、使用や保管については、看護師が保育士に対し研修を行っている。また、今まで使用した事例はない。

- 業務計画書46ページの男性職員の配置について、「男性保育士の比率は約15%となっており、全国平均4%を大きく上回っております。」とあるが、今後も男性保育士を増やしていくのか。また、男性保育士の長所と短所について伺いたい。
 - 男性保育士の活躍の場があるということが浸透してきており、年々男性の応募が増えている状況であることから、指定管理者では選考が通れば今後も採用していく予定であると聞いている。

男性保育士の長所としては、父親的な役割を担ってくれることや男性としてのダイナミックさ、力強い面などで子どもたちから憧れられていることがある。また、男性保育士がいることで、防犯面においても役立っている。

また、短所ではないが、男性保育士の場合、女児のおむつ替え等を気にするご家庭もあるため、おむつ替えは1人では行わず、女性保育士と一緒にいるなどの配慮が必要となると聞いている。

- 業務計画書59ページの収支計画について、委託費が増額となっているが、どのようなものが増額となると見込んでいるのか。
 - ゴミ回収費用・社労士報酬等であり、業務量、単価の高騰を考慮し値上げを見込んでいる。

○ 業務計画書別紙の人員配置計画について、異動を反映させていない計画となっているが、実際は平均何人くらいの異動がある見通しなのか。

また、他の保育所では主任と副主任の体制だが、南部保育所は主任が2人の体制となっていることの狙いは何か。

→ 現時点で異動は確定していないが、平均4人程度の異動を見込んでいる。

また、主任を2人体制としているのは、どちらか1人が年度途中で結婚や出産で退職することなどを想定しているためである。

(2) 木間ヶ瀬保育所について

○ 業務報告書12ページの危機管理体制が確立されていることについて、災害に備えて、発電機、食料、水、テントを初めとした用具類を常備していると記載があるが、食料について、備蓄量(何人分、何日分)を教えてください。また、保存期限等をどのように管理しているのか。保存期限が到来した食品の処分方法も教えてください。

→ 現在の在園児101人分の3日分を備蓄しており、米については常時新しい米を備蓄しておけるように入替している。

また、保存期限は一覧で管理するとともに、保存箱などに大きく記載している。乾パン、ビスケットなどは、賞味期限を迎える前に防災訓練や避難訓練の際におやつとして提供している。

○ 業務報告書20ページの事故、要望及び苦情対応状況について、1年を通して保育所内での児童の怪我による事故はなかったのか。

→ 転倒での擦り傷や打撲はあるが、通院するような怪我はなかった。

○ 業務報告書別紙の人員配置状況について、保育補助が南部保育所よりも多いが、保育補助の役割について教えてください。

→ 保育補助の役割は、食事の配膳、保育室、トイレ等の清掃、排泄補助など、保育士の仕事の補助的な役割をしている。

○ 保育補助が多いのは正規保育士が少ないからか。

→ 正規保育士の配置基準は満たしているが、保育補助が多くいることで正規保育士の業務に余裕が出るため雇用している。

○ 業務報告書28ページの仕様書の水準確保の状況について、2歳から3歳へのクラス担任の持ち上がりが出来なかった理由の「職員異動等による全体の職員配置を考えた結果」の具体的な内容について教えてください。

→ 担任の持ち上がりが出来ることが、最も「安定した保育」と考えているが、昨年度のクラス担任3人のうち、1人が退職、2人は主に3歳未満児クラスを

多く経験してきた保育士であったことから、3歳児のクラス担任経験がある保育士を新たに配置することとした。結果として、園全体の職員配置を優先させたことから、3歳児クラスの担任持ち上がりが出来なかったもの。

○ 担任の持ち上がりについては仕様書に記載があるのか。あるのであれば、自己評価はBにならないのではないか。

→ 職員配置については、担任の持ち上がりとしているが、実行できていないのが現状である。

○ 事業計画書24ページの地域との関わりへの取組みがされていることについて、世代間交流事業として、近隣の老人施設への慰問など積極的な交流と記載があるが、具体的な施設名と交流の内容、慰問先の感想などを教えてほしい。

→ 野田市中里の葵の園に、5月から10月まで月に1回、5歳児が慰問している。慰問先では、一緒に歌を歌ったり、手遊びをしている。その他にも、お年寄りと一緒に「梅干し体操」を行っている。子どもたちは、毎回楽しみにしており、お年寄りとの触れ合いを通して、人に優しく接することを学んでいる。

また、慰問先からは、毎回子どもたちに元気を分けてもらっていて、とても楽しみにしているとのお話をいただいている。

○ 事業計画書61ページの人員配置計画について、事業報告書の人員配置よりも保育補助が1人少ない理由を教えてほしい。

また、コビーの保育士確保の考え方や対策について教えてほしい。

→ 30年1月に退職する保育補助の職員を記載しなかったために1人少なくなっている。なお、30年度の人員配置については、本部へ保育士1人以上の増員を要望している。

保育士確保対策については、求人に対する応募があった場合、本人の希望の時間帯や出勤頻度、保育士としての経験値や家庭の事情等を考慮し、柔軟かつ多様な働き方の選択肢を提供できるようにしている。

また、法人として事業所内保育所の整備や宿舍借上げ制度の活用、社宅の整備等で従業員の福利厚生についても積極的にバックアップし、働きやすい環境づくりに努めていると聞いている。

○ 実際に保育補助が1人減ると、保育サービスの質が下がることが心配されるのではないか。

→ 配置基準より手厚く配置しているため、保育サービスの質は維持できる。

○ 男性保育士が3人いるが、更衣室等の確保はどのように対応しているか。

→ 職員トイレは共用であり、鍵をかけて利用している。また、倉庫を更衣室としているが、男性保育士は廊下のロッカー前で着替えを済ませているのが現状である。

(3) 尾崎保育所について

- 業務報告書2ページの③給食（おやつ）の提供への取組状況のアレルギー対応について教えてほしい。
 - 指定管理者の食物アレルギー対応マニュアルに準じて提供を行っている。食物アレルギーの診断がある児童に関して入所時に面談を行い、対応開始後は半年に1回面談を行っている。
 - 提供の仕方としては、個人アレルギー変更献立表、個人アレルギーチェック表を使い、園長、栄養士及び担当保育士で確認を行う。給食は皿ごとにラップをかけ、名前と除去内容を明記する。また、アレルギー児の給食用配膳トレーの色を変え、更にテーブルも別にするといった対応をしている。

- 業務報告書6ページの委託実施状況について、「早番対策システム」と「保守管理コールセンター業務」の内容について教えてほしい。
 - 「早番対策システム」は職員の遅刻を防止するために個人の携帯電話に連絡をしてもらえるシステムであり、「保守管理コールセンター業務」は修繕などの作業を一括して対応している業者のコールセンターである。
- 修繕などの作業対応とは、この業者が一括して修繕業者に依頼をするということか。
 - コールセンターが一括して修繕を依頼している。ただし、野田市の場合は地元業者の利用を推奨しているため、当てはまらないこともある。
- 現場を見ていない者が修理を依頼するのか。
 - コールセンターが修理業者を手配し、修理業者が直接現場を見ることになる。

- 業務報告書9ページの事故、要望及び苦情対応状況について、事故が多いように感じるが、他園と比べてどうか、また、保険の適用について適切に行われているか。
 - 事故件数は、指定管理者が運営する園よりは多くなっている。保険対象の事故が起こった場合は、保険適用のための手続きを随時行っている。
- 今年度の事故が特別多いのか。
 - 5歳児クラスの人数が多かったことが原因と考えられる。現在は保育士加配を行ったため、以前より落ち着いてきている。

- 業務報告書の仕様書の水准确保の状況について、4歳から5歳へのクラス担任持ち上がりができなかった理由「職員異動等による全体の職員配置を考えた結果」の具体的な内容は何か。
 - 昨年度のクラス担任2人のうち、1人が産休、1人は事情により3月から翌月にかけて休暇を取得したため、クラス担任の持ち上がりができなかった。当該

クラスで安定した保育を実施するため、3歳児の時の担任経験者を配置することとしたもの。

- 業務計画書7ページの地元住民の雇用、物品及び役務の調達に際して地元業者への配慮がなされていることについて、尾崎保育所の職員のうち、野田市在住者の人数は何人か。また、食材の調達において、市内事業者からの仕入れ状況を教えてほしい。

→ 野田市在住の人数は9人である。また、市内の仕入れ事業者は小沼屋のみで、野菜、果物関係を仕入れている。

- 業務計画書別紙の人員配置計画について、非常勤で週40時間勤務の保育士は常勤に分類されると思うが、非常勤とした理由を教えてほしい。

また、指定管理者の保育士確保の考え方や対策について教えてほしい。

→ フルタイムのアルバイト勤務の職員を非常勤としているため、週40時間勤務であっても非常勤と記入している。

また、現在行っている確保対策について、夕方から閉園までの時間帯の時給を上げることで、閉園時間まで勤務できるアルバイトを確保することや、職員からの紹介キャンペーンを実施している。

(4) 花輪保育所について

- 業務報告書1ページの第三者評価について、評価結果がどのような結果で、それに対しどのような対応をしたのか教えてほしい。

→ ゆったりした保育室、広い園庭の自然に恵まれた保育所で、子ども達は多彩な保育プログラムにより明るく伸び伸びと生活し日々成長している。また、親子参加の食育活動など積極的に取り組んでいるとの評価であった。しかし、取組が望まれるところとして、より働きやすい職場を目指し人事管理体制の整備に努めることや、園舎の老朽化に対し抜本的な対策が望まれるとのことであった。

対応として、伸びやかな保育を継続させ、より良い人事管理体制の構築に取り組んでいく。なお、園舎の老朽化についてはファシリティマネジメントに準じて計画的に対応していく。

- 業務報告書2ページの危機管理体制が確立されていることについて、防犯対策の状況として、年2回の不審者訓練を実施したと記載されているが、野田警察署と連携した訓練は実施していないのか。

→ 野田警察署と連携した訓練は実施していないが、今後導入することを検討したいと聞いている。

- 業務報告書5ページ委託実施状況について、i P a dをレンタルしているが、どのように活用しているのか。
 - 児童の登降所時の時刻管理に活用している。従来、手書きで行っていたものをデータで扱うことにより、職員の負担軽減につながるよう30年1月から導入した。
- クラスに1台ずつ用意しているのか。
 - i P a dの設置場所について、3歳未満児クラス用に1台、3歳～5歳児の各クラスに1台ずつ計4台設置している。どのi P a dにI Cカードをかざしても使用できる。
- 業務報告書8ページの事故・要望又は苦情の対応状況の、4月10日に発生した0歳児の保護者からの苦情への対応について、年齢ごとの慣らし保育期間の目安など、入所前の段階で保護者へどのように説明を行っていたのか。
 - 入所説明会の全体説明の中で、指定管理者が作成している「慣らし保育」の文書を配付し、所長が説明している。また、その後各クラスに分かれて個別面接を行う際にも担任や栄養士が慣らし保育の期間について個別に説明をしている。
- 業務報告書14ページの収支状況報告について、人件費が大幅に増額の見込みとなっているが、原因は何か。
 - 児童の受入れを増やすにあたり、職員を採用するための増額であり、1人分を予定している。また、今年度から実施の保育士処遇改善による賃金上乘せ分も見込んでいる。
- 業務報告書別紙の人員配置状況の仕様書水準確保の状況について、2歳児から3歳児へのクラス担任持ち上がりができなかった理由「職員異動等による全体の職員配置を考えた結果」についての具体的な内容を教えてほしい。
 - 昨年度のクラス担任3人のうち、1人が産休、1人は新卒保育士の教育指導のため0歳児クラスに配置しており、もう1人は2歳児クラスのリーダーとして配置したことから、3歳児への持ち上がりができなかったもの。
- 業務計画書5ページの危機管理体制が確立されていることについて、花輪保育所は、近隣に「土砂災害警戒区域」があり、土砂災害に備えて避難経路等の確立が必要だと思うが対応はできているのか。
 - 土砂災害が予想される際は、早めの避難が第一だと考えており、お散歩コースの一つに避難経路を含めるなどして、園児も認識できるよう日々取り組んでいる。

- 業務計画書 8 ページの③人材育成の取組について、「どの職員でも自由に参加できる自由選択研修を設け、積極的に研修に参加した職員には、賞与支給時に評価するなど、職員のモチベーションアップにもつなげていきます。」とあるが、具体的にどのように評価し、賞与に反映させるのか教えてほしい。
- 株式会社日本保育サービスでは、半期に一回の評価時に査定表というものをを用いて賞与の査定を行っている。査定表の項目には研修欄を設け、所長が研修に参加した回数も把握した上で査定を行っている。

- 業務計画書 12 ページの施設の利用計画について、利用人数の大幅な増加を見込んでいるが、その根拠は何か。また、職員は実質 1 人程度の増員のようにあるが、元々余裕があったのか伺いたい。
- 今年度は定員 150 人に対して 12 月 1 日現在の受入児童数が 124 人であったが、来年度は入所人数を定員まで近づけたいため、利用人数の増加を見込んでいる。また、職員の配置については、配置基準は満たしているものの、余裕があるわけではないため、引き続き採用に注力していくと聞いている。

(5) 清水保育所について

- 業務報告書 1 ページの施設の効用（設置目的）が最大限発揮されるものであることの異年齢保育について、「3・4・5 歳児の 3 人組」をつくり、深い関わりを持つような活動を始めた」と記載があるが、当該保育の狙いは何か。また、どのような効果が現れているか。
- 兄弟で登所している家庭もあるが、一人っ子の児童もいる中、学齢での保育が中心で、同年齢の友達と過ごす時間が多いことから、保育所内での「きょうだい」として異年齢の 3 人組を作っている。これは、縦割りの保育を取り入れることで、人との関わり方や集団生活のルール、役割分担を身につけてもらうことを狙いとしている。
- また、効果としては年上の子どもが年下の子どものお世話をする中で思いやりや優しさを育み、年下の子ども達は年上の子どもに憧れ、真似をするといった人との関わり方が身につくなどの効果が現れている。

- 業務報告書 5 ページの地域との関わりへの取組状況について、「ふれあい会」、清水高校、デイサービスとの交流など様々な取組がなされ事業者の自己評価が A となっているが、担当課評価を B とした理由を教えてください。
- 清水保育所は、指定管理者導入前から積極的に地域の高齢者とのふれあい活動を実施しており、その他の様々な取組についても事業計画に基づき実施しているため、担当課評価を B とした。

- 業務報告書 8 ページの③人材育成の取組状況について、「スタッフシートを用

いて職員が自己評価を行い、さらに主任・園長が評価を行い、それを基に園長と面談をして、各職員が次の目標を立て、自己育成に取り組めるようにしております。」とあるが、具体的な内容を教えてほしい。

→ 株式会社こどもの森グループ共通のフォームで、半年に1度自己評価を行い、その際に自己評価以外に園長と主任が評価を行う。評価の摺合せを行うことで、独りよがりの評価にならないようにしている。

また、面談の際には、評価の他に職員からも状況も聞き、安心して職務に臨めるように工夫している。

○ 業務報告書12ページの年度事業報告について、わくわくタイム(芸術鑑賞会)はどのような行事か。また、費用が発生するようであれば、収支報告のどこに計上しているのか伺いたい。

→ 通常保育ではできない経験を子ども達に提供したいとの思いで始めた行事であり、28年度はバイオリンとピアノの生演奏、また、29年度はフラダンスのグループに來所していただき、踊りを観たり、一緒に踊ったりする等、楽しい経験を提供できた。費用は、ほぼボランティアで、交通費のみ支払っており、収支報告②支出のその他から交通費を支出している。

○ 業務報告書16ページの収支状況報告について、支出の区分中、租税公課の主な内容は何か。

→ 租税公課は法人税、法人事業税、法人地方税である。

○ これは転記簿か何かで按分して計上しているのか。

→ グループ全体の保育所における、税引き前の利益の割合で按分をしている。

○ 業務計画書7ページの地元住民の雇用、物品及び役務の調達に際して地元業者への配慮がなされていることについて、清水保育所の職員のうち、野田市在住者の人数及び食材の調達において、市内事業者からの仕入れ状況を教えてほしい。

→ 野田市在住の職員は13人となっている。

また、食材の調達は、青果は富田屋、肉はせきしんと岩崎精肉店、魚は鳥金と池田商店から仕入れている。

○ 業務計画書14ページの人員配置計画について、保育士A及びBは新規採用の保育士を予定しているのか教えてほしい。

→ 新規採用の保育士を予定している。

(6) 東部保育所について

○ 業務報告書2ページの③給食(おやつ)の提供への取組状況について、「バイ

キング給食」を実施していると記載があるが、当該給食の内容と児童の評判を教えてください。

→ バイキング給食とは、例として「こどもの日を祝う会（5月開催）」において、児童が好みに合わせてちらし寿司に具材をトッピングするもので、子ども達には好評と聞いている。

○ 業務報告書7ページの破損及び修繕の実施状況について、20万円以上の修繕と回転釜水栓増設工事などがあるが、どのような経緯で指定管理者が実施することになったのか。

→ 20万円以上の修繕については、ロッカーや保育室床の修繕など複数の修繕相談があったが、1か所あたりの修繕費用は20万円に満たなかったことから指定管理者に実施させた。また、回転釜の水栓増設工事については、指定管理者から回転釜の清掃時に既存の水栓だけでは足りず、不便であるため、増設してほしいとの要望があったが、市としては現状でも対応可能であり増設はしないことを説明したところ、調理員の負担軽減の観点から指定管理者が工事を実施したいとの協議があり、市が許可したものである。

○ 業務報告書11ページの年度事業報告について、他の園と比べ、報告されている行事の数が少ないが、どのように考えているか。

→ 業務報告書には保護者も参加する行事のみを記載した。

この他にも、豆まき会やひなまつり会、夏祭りやハロウィンなど、直営保育所だったときと同様の行事を行っている。

○ 保護者が参加している事業以外も併せて掲載した方がよいのでないか。

→ 修正して掲載する。

○ 業務計画書1ページの②サービス向上のための取組について、現在の状況を見直し、実際の運営に反映させると記載があるが、どのように保護者の意見を取り込むのか。

→ 保護者から寄せられた意見に対して、保育面、行事面、職員面に分け、現状の体制の中で反映できるのかを話し合う会議を年2回設けて、運営に反映させている。

○ 業務計画書10ページの収支計画について、人件費が900万円と大幅に増額となっている理由を教えてください。また、人件費上昇に合わせて法定福利費は増額しないのか伺いたい。

→ 他の自治体での処遇改善が進み、野田市での人材確保が難しくなっており、派遣職員で賄う必要が高まっている。また、派遣のため法定福利は増加しない。

<審議の結果>

平成29年度(4月～12月)野田市立保育所業務報告書及び平成30年度野田市立保育所業務計画書について、東部保育所における指摘事項の修正も含め承認

3 閉会